

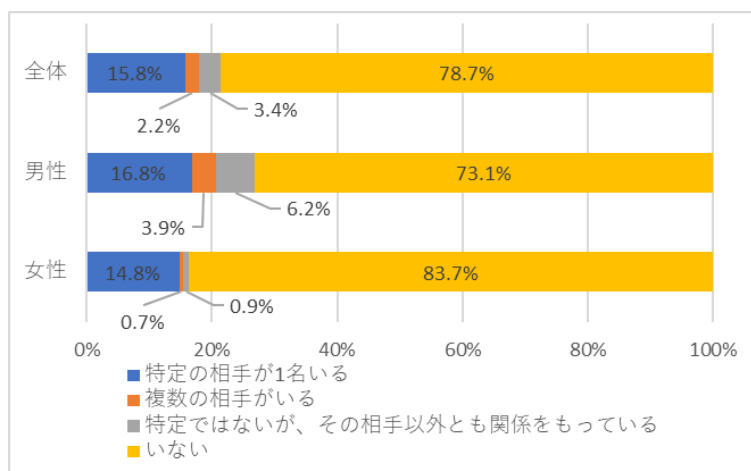
学生の恋愛観と浮気への意識

平田 莉乃（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. 目的

大学生になると時間、生活、人間関係に変化がある。その中、恋愛のスタイルにも変化があるのか調査を行った。恋愛は非常に重要な人間関係である。近年、恋愛に関する心理学研究も増えている。恋愛研究は大きく4つに分類される。「恋愛に対する態度や認知」、「異性選択と社会的交換」、「恋愛感情と意識」、「恋愛の進行と崩壊」である [1]。恋愛において現実、フィクションで幸せに語られることが多い。SNSの投稿、占い、雑誌、フィクションの代表としては少女漫画があげられる。『君に届け』[2]という漫画は少女漫画の代表作であり、映画化もされ、主人公は困難を乗り越えながらも幸せになっていく。この作品は学校の人気者の男子と地味で大人しい主人公が恋愛をする理想的な話である。しかし、近年「浮気」や「不倫」を題材にした作品や、芸能人のニュースを多く目にするようになった。「不倫」の題材で社会的に話題になった作品は2014年にフジテレビで放送された『昼顔』[3]というドラマだ。2017年には映画も公開され、「不倫」を題材にしながらも人気の作品となった。芸能人のニュースでは、2020年に俳優の東出昌大が唐田えりかとの共演をきっかけに不倫をしていたり、同じく2020年に芸人のアンジャッシュ渡部が不倫をしていたりと、メディアで活躍している芸能人の不倫が目立つ。そこで、現実には実際「浮気」に対してどういった意識があるのかと考えた。先行研究では成人している男女の浮気についての資料をみた。その調査は様々な年代で浮気について割合を見ていた。「結婚相手・交際相手がいる方に対してその相手以外と関係をもっている方はいるか?」という質問に対して全体の21.3%は特定あるいは不特定多数の相手と浮気をしているという結果であった [4]。

図表1 成人している男女の浮気の割合



その中で、学生のような若い世代の「浮気」の実態はどのようなだろうかと思い、本研究に至った。

今回の調査は学生の恋愛に対する態度、感情、意識、浮気に関して調査した。学生の恋愛観を性別、性格、恋愛に対する意識の側面からみて人との関り方がどう変わるのか、感情が動く動機、状況はどうか分析する。

恋愛は定義づけが人それぞれだが調査の中では恋愛態度の分類法「ルダス」、「プラグマ」、「ストルゲ」、「アガペー」、「エロス」、「マニア」の6つのタイプの特徴^[5]から定義し設問を作成した。恋愛において当人の性格、思考と恋愛の意識にはどういった関連性があるのか、「浮気」をするにあたり、恋愛態度の特徴、性格、過去の経験は関係があるのかといった調査を行った。

本調査は「学生の恋愛観と浮気への意識」の研究である。「浮気」とは、「配偶者・婚約者などがありながら、別の人と情を通じ、関係をもつこと」という意味である^[6]。だが、学生に関する調査のため交際関係にある相手は「恋人」である。そして近年LGBTの恋愛・結婚に対して問題視され、同性同士の恋愛が公になってきた。そこから、必ずしも交際相手が異性とは限らない。そのためここでは、「浮気」の定義として「恋人がありながら、他の人物に気がひかれ、関係をもつこと」とする。

「浮気」はどこからが浮気となるのか人により尺度が異なる。交際のきっかけ、から各分野による浮気、不倫への意識・関心を調査、分析した。分野による意識・関心は「漫画」、「本」、「ドラマ」、「芸能人」、「友人・知人」、「自分自身」と創作物から現実を主に区分した。この分析で恋愛と浮気の関係、分野別の意識から学生において恋愛と浮気はどのようなものなのかを考えていく。

2. 調査概要

2-1 調査経緯

- 5月-7月 調査テーマの決定、文献・資料収集
- 8月-10月 予備調査作成、実施、集計
- 11月-12月 本調査票作成、本調査実施、集計
- 1月-2月 本調査集計、執筆

2-2 調査目的

学生の恋愛観と浮気に対する意識と実態を調査する。

2-3 本調査実施時期

2020年12月2日から12月14日の2週間

2-4 調査対象者

文教大学生湘南キャンパス、越谷キャンパスの1年生から3年生の学部ごと※1から層化抽出をした。学部の学生数を合計から割合を出し、割り当て数から13人間隔でランダムサンプリングを行った。600人にアンケートを送付し164件の回答があった。回答率は女性の方が割合が大きかった。学籍番号からの推計学生数であり、実際の学生数とは異なる。例年、新入生入学者数を元に学籍番号からリストを作成している。卒業年次以降の学生や、学籍番号の番号配置が異なる留学生は含まれていない。

※1 情報学部、経営学部、国際学部、健康栄養学部、人間科学部、文学部、教育学部

図表 2 割り当て表

		学生数	割合	割り当て数	学生数/割り当て数の切り上げ	G列の切り下げ
情報	情報システム	1244	0.36	89.34	13.82	13
	情報社会					
	メディア表現					
経営	経営	729	0.21	52.35	13.75	13
国際	観光	1106	0.32	79.43	13.83	13
	理解					
健康栄養	管理栄養	425	0.12	30.52	13.71	13
	合計	3504	0.42	251.63		
人間科学	人間科学	1715	0.35	123.16	13.83	13
	心理					
	臨床心理					
文学	英米語英米文学	1566	0.32	112.46	13.86	13
	外国語					
	日本語日本語文学					
	中国語中国文学					
教育	学校教育課程	1570	0.32	112.75	13.89	13
	心理教育課程					
	合計	4851	0.58	348.37		
	総合計	8355		600		6

2-5 実施方法

Gmail でランダムサンプリングから選ばれた調査対象者にアンケートを添付した。回答期限を2週間とした。実施に際しては、調査への協力は任意であり、プライバシーの侵害、個人特定の内容は含まれていないことなどを説明した。なお、本調査で使用するアンケートの質問項目、調査の実施方法、メールの送信、データの管理などについては、本授業の教授に確認を行い承認されたうえで行った。

2-6 主な質問項目

基本属性、自身の性格、恋愛意識、浮気意識について質問した。浮気意識を聞くうえで回答者に不信感や負担を持たせないよう考慮し、個人の恋愛意識から質問を進めていった。質問ごとに番号をふって19問としているが、細かい質問項目としては53項目ある。段階評定は恋愛傾向と恋愛感覚^[7]、自身の性格について行った。段階評定は合計26の質問をした。恋愛傾向と恋愛感覚の設問に対しては「1：そう思う」、「2：まあそう思う」、「3：あまり思わない」、「4：思わない」の4件法で回答を求め、性格に対しては「1：当てはまる」、「2：まあ当てはまる」、「3：あまり当てはまらない」、「4：当てはまらない」と4件法で回答を求めた。

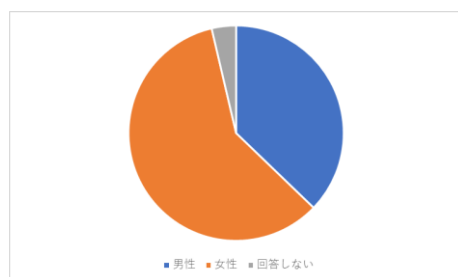
3. 調査結果

3-1 調査対象者の属性

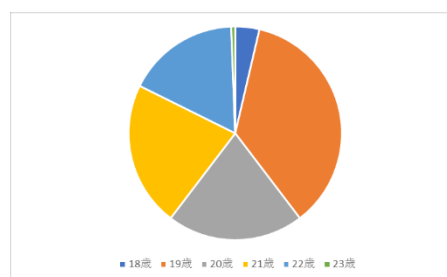
回答者の内訳として、性別は「男性」62名(37.8%)、「女性」96名(58.5%)、「回答しない」6名(3.7%)。となる(N=164)。

年齢は「18歳」6名(3.7%)、「19歳」59名(36%)、「20歳」34名(20.7%)、「21歳」36名(22%)、「22歳」28名(17.1%)、「23歳」1名(0.6%)となる(N=164)。今回文教大学の学生に調査を行ったが恋愛についてプライバシーに関わるような質問があるため学部のデータは取らなかった。

図表3 性別



図表4 年齢



3-2 恋愛の傾向

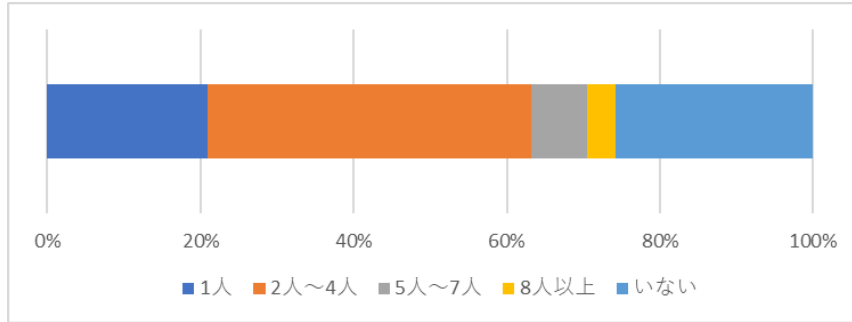
3-2-1 交際人数

現在から過去にかけての交際人数を聞いた。交際人数は「1人」34名(20.9%)、「2-4人」69名(42.3%)、「5-7人」12名(7.4%)、「8人以上」6名(3.7%)、「いない」42名(25.8%)となった(N=163)。50%近くの人たちがある程度の人数と交際している(図表5)。

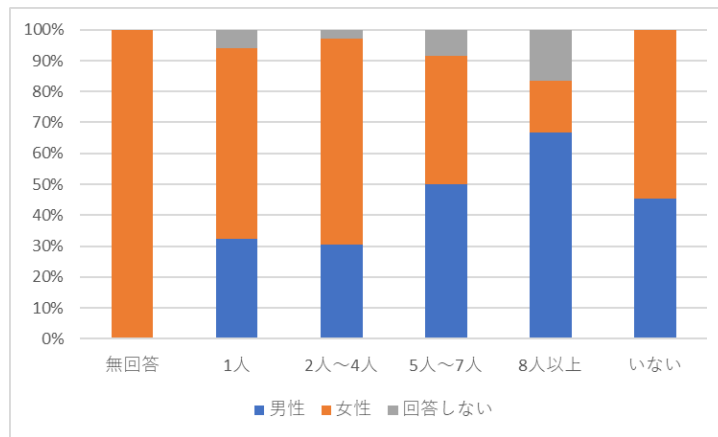
男女別に過去の交際人数を示すと、「男性」の場合は「1人」11名(6.7%)、「2-4人」21名(12.8%)、「5-7人」6名(3.7%)、「8人以上」4名(2.4%)、「いない」19名(11.6%)となり(N=61)、女性が「1人」21名(12.8%)、「2-4人」46名(28%)、「5-7人」5名(3%)、「8人以上」23名(0.6%)となった(N=96)(図表6)。

女性の方が比較的多くの人と交際していることが分かる。だが「8人以上」と交際しているのは男性の方が割合は高い。

図表5 今までの交際人数



図表6 交際人数(男女内訳)



3-2-2 恋愛観と性格の尺度

恋愛観の尺度と性格の尺度から構成した因子分析を行った。因子分析を行う上で恋愛傾向と恋愛感覚を恋愛における心理尺度から参考にした。因子抽出には最尤法を用い、HADを使用した。そこから8つの因子構造が示唆された。「恋愛に対して積極的だ」、「恋愛は楽しむことが大切だ」、「恋愛は面白い」といった質問に高い因子負荷量を持つ第1因子は、「向上因子」とした。恋愛において相手に独占欲がわく、支配的な欲がわくといった第2因子は「没入因子」、恋愛で経済力、社旗的立場、容姿などに魅力を感じる第3因子は「付加価値因子」とした。第4因子は「不安」、第5因子は「内面」、第6因子は「思いやり」、第7因子は「関係」、第8因子は「目的」といった分類分けとなった。恋愛は積極的に楽しむものだが、相手を独占したくなったり、夢中になったり、没頭してしまうというもので、恋愛の色彩理論でいう第1因子は「ルダス」、第2因子は「マニア」の分類だ。

図表7 恋愛尺度の質問群と因子分析結果

項目	向上因子	没入因子	加価値因子	不安因子	内面因子	いやり因子	関係因子	目的因子	平均値
9-7 恋愛は楽しい	.741	.028	.051	-.098	-.146	.224	.068	.000	1.960
9-1 恋愛に対して積極的だ	.623	-.132	-.042	-.164	.124	-.271	.111	.000	2.880
9-2 恋愛に対して興味がある	.621	.159	.031	-.050	.032	.027	-.106	.000	1.950
10-1 恋愛は楽しむことが大切だ	.576	-.007	.068	.126	-.055	.167	.040	.000	1.680
9-3 恋愛は面白い	.510	.164	-.053	.055	.019	.068	-.003	.000	2.050
9-9 恋愛において相手に対して独占欲がある	.110	.956	.154	-.042	-.081	-.094	.061	.000	2.670
10-4 恋愛は情熱的なものだ	.148	.393	-.088	.072	-.036	.119	-.003	.000	2.320
10-6 恋愛は長い時間をかけて愛を育むものだ	-.087	.344	-.026	.017	.098	.186	.089	.000	2.140
10-5 恋愛は相手を支配するものだ	-.014	.315	-.026	.001	-.168	.008	-.080	.000	3.540
3-3 人の経済力に魅力を感じる	-.009	-.129	.964	-.020	-.074	-.009	.109	.000	2.370
3-5 人の社会的立場に魅力を感じる	.083	.080	.526	.116	.145	-.005	-.096	.000	2.600
3-1 人の容姿に魅力を感じる	-.078	.071	.350	.040	.187	-.084	-.237	.000	1.700
3-4 人の年齢に魅力を感じる	.164	.163	.304	-.009	.095	-.159	-.063	.000	2.450
3-6 人の賢さに魅力を感じる	-.073	-.030	.280	.121	.240	.041	-.071	.000	2.030
9-10 恋愛において不安になりやすい	.042	.042	-.126	-.929	.066	.003	-.068	.000	2.150
3-7 人の価値観に魅力を感じる	-.005	-.057	.199	-.053	.808	.100	.106	.000	1.330
3-2 人の性格に魅力を感じる	-.032	-.105	.067	-.059	.468	.192	.024	.000	1.210
9-4 恋愛において相手を尊重したいと思う	.177	.009	-.115	.121	.171	.637	-.032	.000	1.510
9-8 恋愛は難しい	.062	.058	.131	-.224	.066	.488	-.148	.000	1.540
10-2 恋愛は自分のことよりも相手を第一に考えるものだ	-.002	.202	-.170	-.052	.090	.315	.086	.000	2.160
9-5 恋愛においていろんな相手と出会いたいと思っている	.492	-.217	.057	.054	-.076	-.010	-.522	.000	2.310
9-6 恋愛は怖い	-.368	.095	.101	-.169	-.097	.136	-.507	.000	2.490
10-3 恋愛は自分の目的を達成するための手段である	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	-.862	3.160
因子寄与	2.490	2.187	1.935	1.868	1.494	1.251	0.817	0.743	
固有値	3.673	2.663	2.398	1.733	1.266	1.185	1.085	1.053	
累計寄与	65.464								

3-3 男女でみる恋愛観

3-3-1 人の魅力

「人のこういったところに魅力を感じるか」という質問を男女別で分類をした。女性に比べて男性の方が「容姿」に魅力を感じる割合が多かった(49.18%)。一方女性は「性格」に魅力を感じる割合が多い(41.24%)。大学生において「経済力」を魅力と感じる人は男女ともに少ない。「その他」の回答には、「いないのでわからない」、「いない」といった経験がないという回答が8件、「親友だった」という回答が1件あった。カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、性別(問1)と人のこういったところに魅力を感じるか(問8)には、関連はないことが分かった。

図表8 性別による人のこういったところに魅力を感じるか(クロス集計表)

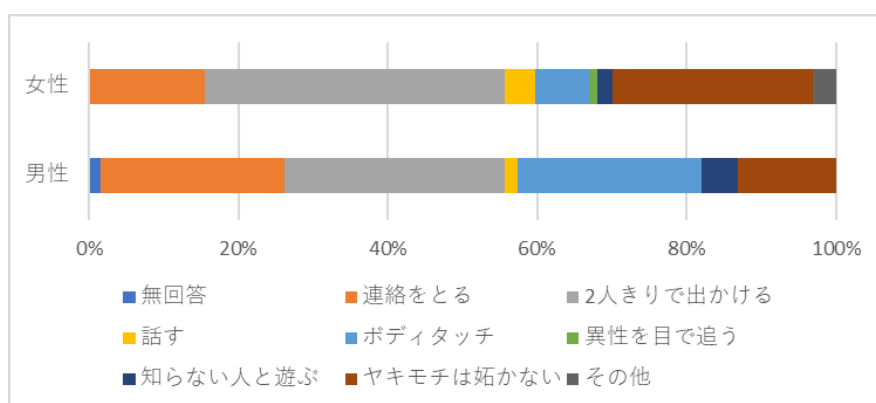
変数	出現値	人の魅力									合計
		無回答	容姿	性格	経済力	年齢	社会的立場	賢さ	価値観	その他	
性別	男性	8(13.11)	30(49.18)	17(27.87)	0(0.00)	0(0.00)	3(4.92)	0(0.00)	1(1.64)	2(3.28)	61(100)
	女性	18(18.56)	27(27.84)	40(41.24)	1(1.03)	1(1.03)	0(0.00)	2(2.06)	3(3.09)	5(5.15)	97(100)
	回答しない	0(0.00)	1(16.67)	4(66.67)	0(0.00)	0(0.00)	0(0.00)	0(0.00)	0(0.00)	1(16.67)	6(100)
	合計	26(15.85)	58(35.37)	61(37.20)	1(0.61)	1(0.61)	3(1.83)	2(1.22)	4(2.44)	8(4.88)	164(100)

$$\chi^2=20.730, df=16, p=.189(p>.05)$$

3-3-2 ヤキモチという感情について

「どういった行為や言動にヤキモチを妬くことがあるか」という質問をした。複数選択とした。男性に比べ女性の方が「ヤキモチを妬かない」が26名(26.80%)と多く割合が大きい。男性は15名(24.59%)で「ボディタッチ」にヤキモチを妬くという。女性は「2人きりで出かける」という回答が39名(40.21%)と、とても多かった。カイ二乗検定の結果、性別(問1)とどういった行為や言動にヤキモチを妬くことがあるか(問12)には、有意な差がみられ、ヤキモチを妬く行為や言動は性別により異なることが分かった。

図表9 性別によるヤキモチを妬く行為(グラフ)



図表10 性別によるヤキモチを妬く行為

変数	出現値	ヤキモチを妬く行為									合計
		無回答	連絡をとる	2人きりで出かける	話す	ボディタッチ	異性を目で追う	知らない人と遊ぶ	ヤキモチは妬かない	その他	
性別	男性	1(1.64)	15(24.59)	18(29.51)	4(4.12)	7(7.22)	0(0.00)	3(4.92)	8(13.11)	0(0.00)	61(100)
	女性	0(0.00)	15(15.46)	39(40.21)	1(1.03)	2(2.06)	1(1.03)	2(2.06)	26(26.80)	3(3.09)	97(100)
	回答しない	0(0.00)	1(16.67)	0(0.00)	0(0.00)	0(0.00)	0(0.00)	2(33.33)	3(50.00)	0(0.00)	6(100)
	合計	1(0.61)	31(18.9)	57(34.76)	5(3.05)	22(13.14)	1(0.61)	7(4.27)	37(22.56)	3(1.83)	164(100)

$$\chi^2=37.957,df=16,p=.002(p<.05)$$

3-4 浮気に対する意識と経験

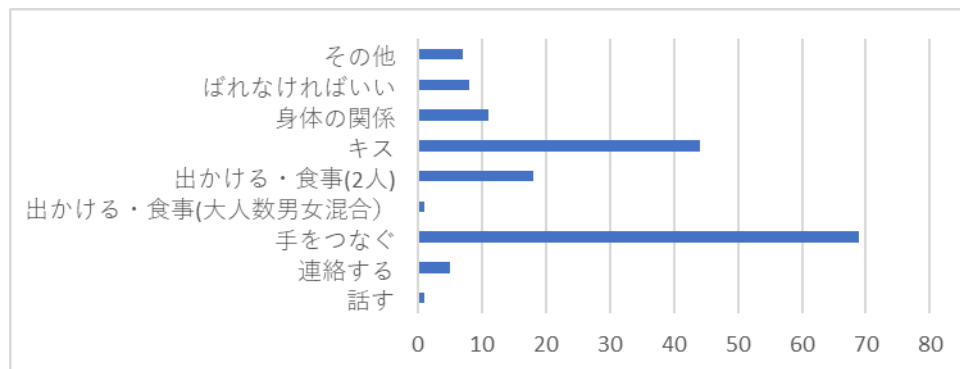
3-4-1 浮気のライン

問19で「どこからが『浮気』と考えるか」と問うた。回答は複数回答とした。結果としては「手をつなぐ」が69名(42.07%)と多かった。次に「キス」が44名(26.83%)となった。その他の回答として、「相手が嫌がることをする」、「恋人以外の人に恋愛感情を抱いたら」という回答があった。

図表 11 どこからが浮気と考えるか(度数表)

出現値	度数	確率(%)
話す	1	0.61
連絡する	5	3.05
手をつなぐ	69	42.07
出かける・食事(大人数男女混合)	1	0.61
出かける・食事(2人)	18	10.98
キス	44	26.83
身体の関係	11	6.71
ばれなければいい	8	4.88
その他	7	4.27
合計	164	100

図表 12 どこからが浮気と考えるか(グラフ)



3-4-2 性別と浮気ライン

「どこからが浮気と考えるか」という質問に対して男女別で分析した。女性は「手をつなぐ」が42名(43.30%)、「キス」が29名(29.90%)と多い。男性は「出かける・食事(2人)」が9名(14.75%)、「身体の関係」が6名(9.84%)と女性に比べて多い結果となった。男女どちらも「ばれなければいい」という割合が一定数いた。カイ二乗検定の結果、性別(問1)とどこからが浮気と考えるか(問19)に有意な差は得られず、関連性はない。

図表 13 性別と浮気ライン

変数	出現値	浮気ライン									合計
		話す	連絡する	手をつなぐ	出かける・食事(大人数男女混合)	出かける・食事(2人)	キス	身体の関係	ばれなければいい	その他	
性別	男性	1(1.64)	2(3.28)	24(39.34)	0(0.00)	9(14.75)	14(22.95)	6(9.84)	4(6.56)	1(1.64)	61(100)
	女性	0(0.00)	3(3.09)	42(43.30)	1(1.03)	8(8.25)	29(29.90)	4(4.12)	4(4.12)	6(6.19)	97(100)
	回答しない	0(0.00)	0(0.00)	3(50.00)	0(0.00)	1(16.67)	1(16.67)	1(16.67)	0(0.00)	0(0.00)	6(100)
	合計	1(0.61)	5(3.05)	69(42.07)	1(0.61)	18(10.98)	44(26.83)	11(6.71)	8(4.88)	7(4.88)	164(100)

$$\chi^2=10.928,df=16,p=.814(p>.05)$$

3-4-3 交際人数と浮気の関係性

交際人数と浮気の関係性を分析した。交際人数が多い方が浮気の割合が高いと考察していたが、結果として交際人数が「5人-7人」で11名のうち7名(63.64%)と浮気経験の割合が高かった。全体の浮気の割合は41.5%と高い割合だった。交際人数が1人以上の経験があるとき、浮気の割合は54.70%となった。カイ二乗検定の結果、交際人数(問4)と浮気経験(問13)には、有意な差が見られなかった。

図表 14 交際人数と浮気経験の有無

変数	出現値	浮気経験		合計
		ある	ない	
交際人数	1人	18(52.94)	16(47.06)	34(100)
	2人～4人	36(54.55)	30(45.45)	66(100)
	5人～7人	7(63.64)	4(36.36)	11(100)
	8人以上	3(50.00)	3(50.00)	6(100)
	合計	64(54.70)	53(45.30)	117(100)

$$\chi^2=0.451,df=3,p=.929(p>.05)$$

3-4-4 男女別浮気経験

男女の浮気の割合を分析した。男性よりも女性の方が浮気をしたことが「ある」という割合が大きかった(55.71%)。カイ二乗検定の結果、性別(問1)と浮気経験の有無(問13)については有意な差が見られなかった。

図表 15 性別と浮気経験の有無

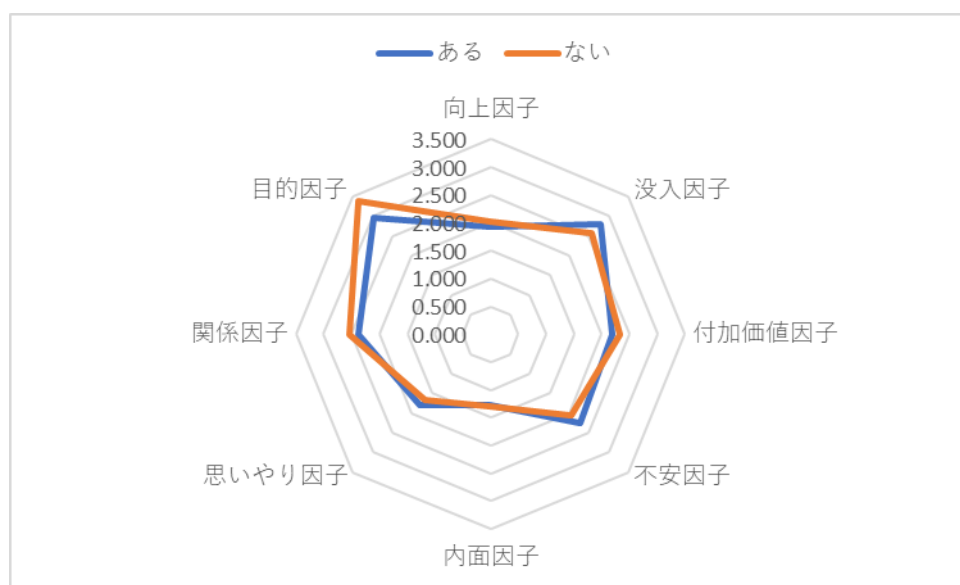
変数	出現値	浮気経験		合計
		ある	ない	
性別	男性	21(51.22)	20(48.78)	41(100)
	女性	39(55.71)	31(44.29)	70(100)
	回答しない	4(66.67)	2(33.33)	6(100)
	合計	64(54.70)	53(45.30)	117(100)

$$\chi^2=0.576,df=2,p=.750(p>.05)$$

3-4-5 恋愛の因子と浮気経験の関係

3-2-2の因子分析の結果から抽出された因子の分類別で点数をだし、それぞれ浮気経験の有無と分散分析を行った。レーダーチャートは、水準ごとの平均値を各因子に含まれる質問数で割った点数をもとに作成した。分散分析の結果、有意な差が見られたのは没入因子($F=4.928, df=113, p=.028(p<.05)$)と目的因子($F=6.769, df=113, p=.011(p<.05)$)の浮気経験の有無の関係だ。没入因子は恋愛対象というより、恋愛に依存しているように見える。レーダーチャートから見ると、目的因子は点数の平均値の差がほかの因子よりもある。その他の因子は浮気経験の有無で差はほとんどなく、分散分析の結果では、因子による浮気経験の有無で特徴があるものは没入因子と目的因子だということがわかった。

図表 16 浮気経験の有無と因子点数



図表 17 浮気経験の有無と因子得点の平均値

		平均値							
		向上因子	没入因子	付加価値因子	不安因子	内面因子	思いやり因子	関係因子	目的因子
浮気経験	ある	1.923	2.803	2.177	2.274	1.266	1.806	2.379	2.968
	ない	2.012	2.567	2.319	2.058	1.298	1.673	2.529	3.365

4. まとめと考察

今回の調査では、文教大学生を対象に学生の恋愛観と浮気への意識を調査し、若者の恋愛

観と浮気への関心、実態、動向について考察していくことを目的にしていた。この調査は2020年に実施したが、2020年に流行した新型コロナウイルスによる生活の変化を踏まえな
いで考察することとする。

今回の調査に回答してくれた学生は過去から現在から過去にかけての交際人数は「2-4人」
が69名(42.3%)と最も多い値となった。だが、交際人数が多くなると男性の方が割合が高
かった。

恋愛観については「楽しい」、「面白い」と恋愛に対して前向きな傾向が多かった。相手を
大切に考えていたり、尊重していたりする回答から、大学生における恋愛は相手とともに恋
愛を楽しんでいるのではないだろうか。「不安感」や「支配欲」を持つ人も少数いたが、相
手のことを強く思うゆえだと考える。

人のどういったところに魅力を感じるかという質問ではやはり「容姿」が最も多い割合だ
った。「性格」は次に多かった。学生数が増え、交流の幅が広がる大学生では「年齢」と「価
値観」がもう少し多いのではないかと考えていたが、結果としては男女ともに魅力を感じる
人は少なかった。

ヤキモチについては男性は直接的な接触にヤキモチを妬き、女性は見えない行為や間接
的な行為にヤキモチを妬いていた。だが、女性が「ヤキモチは妬かない」という割合が多か
ったことは意外だった。

浮気については回答者の40%以上の方が浮気経験があることに仮定よりも多い割合とな
り、「交際人数が1人以上」いた場合、54.70%と過半数の人が浮気経験があるという結果と
なった。そして女性の方が59%と浮気の実験が多かった。そして、「周囲の友人・知人で交
際相手以外と関係をもっている人はいるか」という質問に対し、「いる」という回答が46%
であった。このことから学生の4割以上は「浮気」の実験があることが分かった。浮気の実
験としては大学以前の出会いが最も多く、次にバイト先という結果だった。交際している人
との出会いの実験では「幼馴染」が2.1%だが、浮気の実験では8.7%と増えた。そのほかに
も「成人式・同窓会」と外での出会いや、元から知っていたという出会いがある。

浮気相手に対する魅力の結果では、「性格」に魅力を感じている人が67.6%と最も多かっ
たが、「容姿」においては恋人や好きな人に対して魅力を感じるところの結果よりも割合が
かなり高い結果となった。

浮気相手とどういった交流をしたかという質問(複数回答)に対し最も多かったのは「話す」
で88.2%だった。次いで「連絡をとる」59.1%、「SNSで繋がる」51.6%、「二人きりで出か
ける・食事をする」35.5%となっている。問19で「どこからが浮気だと考えるか」(複数回
答)という質問をした。そこでは最も多かったのは「キスをする」73.2%、次いで「身体に関
係をもつ」71.3%だった。この二つの結果から見えたことが、どこからが「浮気か」という
質問に対して3番目に多かった回答が「手をつなぐ」44.5%という結果だが、実際の浮気相
手との交流で手をつないだと回答した人の割合は選択肢において最も少ない9.7%だった。
浮気経験の有無については恋愛観、性格の因子からみてあまり関係はなく、環境が影響する

のではないかと考える。

今回学生の恋愛観と浮気への意識を調査、分析したが、その実態は学生の約半分が浮気の経験があるというものだった。経緯や魅力の感じる場所は人それぞれだが、メディアで「浮気はひどい」、「だめだ」と言われている一方現実の恋愛は複雑なものであり、学生において「浮気」というものに対してそこまで重く考えてないのではないかと考える。

5. 参考文献

- [1]高坂康雅(2016) 日本における心理学的恋愛研究の動向と展望
- [2]椎名軽穂(2006-2017) 君に届け <http://betsuma.shueisha.co.jp/lineup/kimitodo.html>
- [3]昼顔(2014) https://www.fujitv.co.jp/b_hp/hirugao/
- [4]相模ゴム工業株式会社 Web アンケート調査(2013)
https://www.sagami-gomu.co.jp/project/nipponnosex/love_sex.html#love06
- [5]松井豊(1990) 青年の恋愛行動の構造 心理学評論
- [6]goo 辞書 <https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E6%B5%AE%E6%B0%97/>
- [7]ジョン・アラン・リー 『the colors of love』(1973) ※ラブスタイル類型論